

## 発想の転換

岩手県教育委員会事務局スポーツ健康課  
指導主事兼保健体育主事 西郷 晃

我が家は娘が高校三年生、息子が中学校三年生です。この三月をもって私の県P連会員の資格は終了します。子どもたちのおかげで、たくさん楽しいPTA活動に携わることができました。自分が通った小学校・中学校に我が家の子どもたちもお世話になり、学校の先生方や地域の方々に大きく、遅しく育てて頂きました。「PTA会員」として考えてきたこと、お世話になったたくさんの方々から教えられ、激励頂いたことを振り返り、こうして紹介出来ることに感謝いたします。

「忙しいとは思いますが、PTA副会長を引き受けていただけられないでしょうか」。娘が小学校六年生にあがる時、教頭先生から夜に電話をいた

の有難い言葉です。私はお引き受けするときに「時間が十分にとれないときもありますが、自分ができることは何でもやりますので」とお話ししました。

「会長の仕事は、会議の時の挨拶と、飲み会への出席、そして挨拶！これをお願いしますね。」実は私の得意な事です。『必ずこれをやらなければならぬ』ではなく、『自分が出来ることを、出来る範囲で精一杯やる』が出来た。みんなの力を合わせればいろいろなことが出来るはず、いいえ、出来ないことはありません。実際、自分の周りを見渡すと、素晴らしい能力を持つている方がたくさんいました。もう

一年間の副会長としての活動が終わると次は「会長を！」とお話を頂きました。私は「私でよければ喜んで！」とお引き受けしました。PTA役員の打診を頂いた当初、皆さんから言われたのは、「忙しいのに本当に大丈夫なの？」ということでした。私のことを心配して



西郷 晃氏  
プロフィール

●上田中、江刈中、下小路中を経て大船渡教育事務所、岩手県教育委員会事務局入部スポーツ健康課指導主事兼保健体育主事。子どもが通った盛岡市立上田小、上田中でPTA会長、盛岡市PTA連合会理事。日本ハンドボール協会ヤングレフェリープロジェクト育成理事

ひとつ、「自分が出来ることに、出来ない理由を作らないで参加してみる」ことです。役員になったからすべてを完璧にこなさなければならぬのか・・・私の答えはノーです。みんながアイディアを出し合って、みんなが分担し、みんなの力を合わせて取り組んでいく。昨年のメンバーと今年のメンバーは違います。今のメンバーで楽しいアイディアを自由にたくさん出し合って活動を決めるのです。結果として「昨年やったら本当に楽しかったから今年もやりましょう！」であればOKですよ。

私たちには「こうあらねばならぬ」と思い込んでいることが案外多くあります。「忙しいからPTA役員など引き受けることはできない」はその一例です。忙しくても出来る**ことが必ずあります。**

『家庭での子育て』は私たち親が必ずやらなければならぬことで、学校の先生方がやることではありません。『子どもたちの教育』は、学校・家庭・地域が力を合わせて取り組んでいくもので、PTA活動そのものです。

学校全体でも学年でも、学級でも、忙しい自分も何か出来る**ことが必ずあるはず**です。時には予定していた時間に急な用事ができて行けなくなることもだつてありますが、それはみんながカバーすればよいのです。だから、自分が行けるときは行けない理由を作らないで参加する。『お互いさま』の心こそ、PTAには大切なものだと考えます。

私は、今「いわてスパーキッズ」の発掘・育成に関わる仕事も担当しています。選ばれた子どもたちは、月に一度のスクールに通い、どの競技にも通じる体力・運動能力を高めるトレーニングや色々な競技種目の体験、コミュニケーション能力を高めたり、みんなの前で堂々と話が出来るとトレーニング等に取り組んでいます。先日、キッズの一人が所属するスポーツ少年団指導者の方とお話する機会がありました。

「○○さんは、うちのチームのキャプテンなんです。スパーキッズのスクールに通うようになって、これまで以上にリーダーとしてみんなを引っ張っ

てくれるようになり、積極性もますます出てきたように感じています。最初は土曜日の練習に来られなくなるといふことで、どうしようかと悩んだりもしたのですが、○○さんがスパーキッズのスクールに行つて頑張っている日は、怪我や病気で試合に出られなくなったときの練習をすることにしました。○○さんがいつも万全であるという保障はありませんからね。」

発想を転換して考えると、これまで自分は出来ないと思つていたことも、できるようなアイディアが浮かんできます。そして出来ないと思ひ込んでいた自分が気がつきます。もしかすると、今までよりも素晴らしいことが出来てしまうかもしれませぬ。考えることはとても楽しいことです。私は子どもが通う学校での楽しいPTA活動を体験しながら発想が以前より豊かになったような気がします。県P連の会員は子どもと一緒に卒業しますが、親として、地域の一人として子どもたちのために、この発想を忘れずに持ち続けたいと思います。